

「薬局 DX 推進コンソーシアム」について

令和5年5月11日

ファルメディコ株式会社

代表取締役社長 狭間研至

1. 背景・目的

薬局や薬剤師が社会で果たす役割が十分に果たせていない例があることが、コロナ禍で明らかになったことを踏まえ、全ての薬局が、機械化やロボット化、ICT化なども活用することで、国民に対し、真に専門的サービスを提供し、医療提供施設として適切に機能する社会を目指し、必要な情報交換、共同実証事業を行い、各種制度構築に貢献する。

2. 活動内容

当面、大阪府を中心に、調剤業務の一部を自薬局以外の店舗で安全かつ効率的に行う国家戦略特区事業(調剤業務の一部委託事業)を厚労省ガイドラインを踏まえ共同実施する。

規模の大小を問わず、全ての薬局が、対物業務を自局に必要な範囲で委託し効率化させることで、患者の待ち時間短縮や在庫管理の効率化、安全性の向上を実現させる。同時に、患者に対して、薬剤の効果・副作用などに関する相談や大量の薬剤管理の支援、新興感染症対策やセルフメディケーションへの対応などの対人業務を拡大させることで、国民の健康な生活を守る医療インフラとして最適な形を追究し、制度への反映を目指す。

3. 体制とスケジュール

以下の体制で令和5年5月中旬に結成することを目指し、賛同される方を公募。
同月下旬を目処に共同での特区事業を再提案する。

- ・代表: 狭間研至(ファルメディコ株式会社 代表取締役社長)
- ・会員は、大手薬局チェーン、中小薬局のバランスを確保しつつ、15法人程度で構成※。
- ・その他 ICT 技術の専門企業や医薬品卸など本会の活動内容に貢献する技術・知見を持つ企業を準会員とする。

※本日時点での、参加表明企業:(五十音順)

1. 株式会社アインファーマシーズ
2. エース・クリエイト株式会社
3. クオール株式会社
4. 株式会社スギ薬局
5. 日本調剤株式会社
6. ネオプラスファーマ株式会社
7. 株式会社バードファーマシー
8. ファルメディコ株式会社
9. 株式会社ペガサスメディカル
10. RISE株式会社

本コンソーシアム参加により、必ずしも特区事業に直ちにに取り組む必要はない。